

「第20回因州和紙あかり展」入賞作品選考審査結果

日時 令和6年1月12日（金）

午前10時～午後3時

場所 鳥取市あおや和紙工房

審査員長 石谷 孝二 氏（鳥取大学名誉教授）
審査員 山ノ内芳彦 氏（木工・灯り作家）
審査員 川崎 富美 氏（プロダクトデザイナー）

■総 評

一般部門には県内外より30点、ジュニア部門が30点の計60点の作品が集まった。例年より大型の作品が少なかったが、工夫をこらした新鮮な作品が集まった。

大賞作品はシンプルな造形の中に明かりの反射を生かした効果的なデザインが評価された。準大賞、佳作の作品には和紙それぞれの特色や明かりの効果を活かしたユニークな作品が選出された。明かりの工夫や和紙の可能性を広げる魅力ある意欲作を今後も期待したい。

■一般部門 講評



大 賞 【明鏡止水】

URUWASHI（山口 雅孝）

（埼玉県北足立郡）

照明としても、オブジェとしても魅力的な作品である。デザインが優れていて、それぞれの素材が効果的に使われている。上の花に使われている和紙は素朴だが、それが生かされている。銀色に輝く下の台に映り込む部分も幻想的である。



準大賞 【灯りに寄せる想い】

梶山 武志（大阪府大阪市）

小さいながら完成度が高く、光ファイバーの照明の効果が成功している。下部のピンクのグラデーションや上部の花びらの重なりによってできる光の変化により和紙の魅力を引き出している。



佳作 【ストロウ】

長谷川 克夫（愛知県江南市）

ストロー状（筒）にすることで、山にグラデーションが出来、柔らかく見える。その柔らかさが魅力的な作品である。和紙の使い方の可能性を広げてくれた作品である。



佳作 【キリコアカリ】

向井 宏志（岡山県岡山市）

外枠から和紙を光らせるためのアイデアが新鮮で斬新である。黒が強すぎて重く感じるのが残念との意見があった。外枠の完成度をあげると発想の良さが更に活かされると感じる。

■ジュニア部門 講評



入 賞 [いろいろもようで織りなす景色]
サポートルーム「すなはま」

個々の個性をうまくまとめた感じが良い。大きく迫力があり、合作の楽しさを感じる作品である。



入 賞 [カメのランプ]
堀尾 愛奈 (鳥取市立気高中学校)

流木の良さを活かしたユニークな作品である。流木を組み立てカメに見立てたところが成功している。



入 賞 [自然のランプ]
坪本 鈴 (鳥取市立気高中学校)

地球？海？陸？見る人によっていろいろイメージできる。流木を使い明かりを浮かせたことが成功している。

■あおや和紙工房賞（鳥取県内の応募作品対象）



入賞 [かみはかり]

林 久美子（鳥取県東伯郡）

全体を青と白でまとめ幻想的な風情が漂っている。光源にピンを使い、直接的な光を抑えるなどの工夫は見る人にも優しい作品となった。



入賞 [日ざしをあびて]

平木 幸江（鳥取県八頭郡）

オーソドックスな和紙の灯りだが、紫陽花や落ち葉を巧みにあしらったシェードの趣が美しい。また、台座にも和紙を使うなど全体的にまとまりがあり完成度の高い作品。